

環境調査結果のお知らせ

令和8年2月26日9時から野見湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で4 cells/mL、下痢性貝毒原因種のディノフィシス・アキュミナータが最高で3 cells/mL確認されました。

アレキサンドリウム属は、100 cells/mLに達すると二枚貝を毒化させる可能性があり、令和6年2～3月及び令和7年2～4月には当該プランクトンによると推察される麻痺性貝毒が発生しています。また、平成29年にはアレキサンドリウム属の赤潮（最高：7,800 cells/mL）により、養殖マダイ及びカンパチでも被害が確認されています。当該プランクトンは、今後増殖する可能性がありますので、十分注意してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	珪藻	アレキサンドリウム 属	ディノフィシス・ アキュミナータ
	(m)	(°C)		(mg/L)			
A ガラク (8.2m) 【10:18】	0	16.5	33.2	7.8	-	0	0
	2	16.6	33.5	7.7	-	0	0
	5	17.0	34.1	7.6	-	1	0
	10	17.2	34.5	7.0	-	0	0
	底層 14.5	17.2	34.6	7.5	-	-	-
B 勢井 (8.5m) 【10:27】	0	16.8	33.0	7.5	-	3	1
	2	16.9	33.9	7.4	-	0	1
	5	17.1	34.3	7.7	-	3	0
	10	17.1	34.5	7.4	-	0	0
	底層 19.5	17.1	34.6	6.8	-	-	-
C 馬の背 (8.6m) 【10:33】	0	16.9	33.7	7.2	30	0	0
	2	17.1	34.0	7.2	0	4	0
	5	17.1	34.3	7.2	0	1	0
	10	17.1	34.5	7.3	0	0	0
	底層 22	17.0	34.6	7.0	-	-	-
D 大室戸 (9.5m) 【10:08】	0	16.2	32.3	7.7	-	0	0
	2	16.9	33.8	7.6	-	2	0
	5	17.2	34.2	7.4	-	0	0
	10	17.1	34.5	6.8	-	0	0
	底層 19.5	17.1	34.6	7.3	-	-	-
E 湾奥ブイ (9.2m) 【09:58】	0	16.8	32.8	7.2	20	0	0
	2	17.1	33.9	7.4	0	2	0
	5	16.9	34.1	7.5	30	0	0
	10	17.1	34.5	7.0	10	3	0
	底層 16.5	17.0	34.6	6.9	-	-	-
F 大谷漁港内 (8m) 【11:00】	0	17.0	33.0	7.0	-	0	3
	2	17.1	33.9	7.1	-	0	2
	5	17.1	34.2	7.0	-	0	0
	底層 9	17.1	34.5	7.1	-	-	-

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				野見湾
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	1～4月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

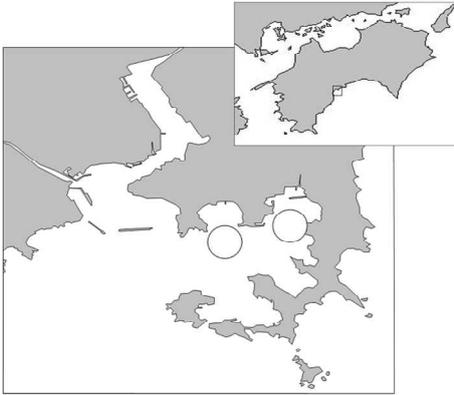
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



- A: ガラク
- B: 勢井
- C: 馬の背
- D: 大室戸
- E: 湾奥ブイ
- F: 大谷漁港内

珪藻
 最大細胞密度



アレキサンドリウム属
 最大細胞密度



ディノフィシス・アキュミナータ
 最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
 円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色
 黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
 基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

